

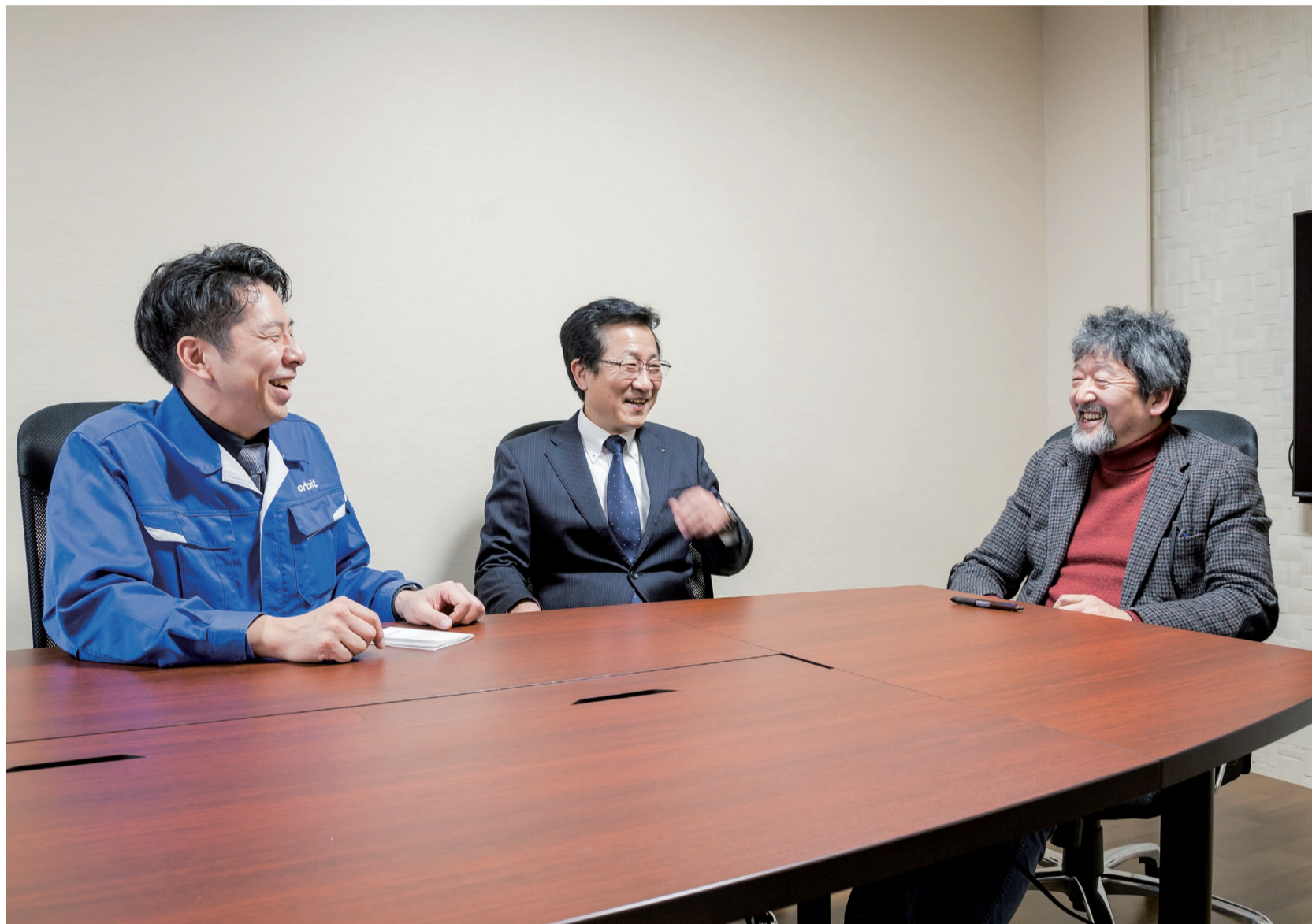
# 備えあれば憂いなし。

## — BCP策定で社内の意識改革・仕組みづくり —

BCP(事業継続計画)(以下、BCP)と聞くと、大企業や大きな工場を有する会社が策定するもので、「中小企業には無縁のもの」というイメージを抱くかもしれない。しかし貴重な経営資源を守り、あるいは早期の復旧や立て直しを図ることは、大手企業以上に切実な課題ではないだろうか。自然災害や感染症だけでなく、グローバル展開をする企業にとっては、海外で発生する災害やテロも大きな脅威となる。社会的

ニーズを考えると、BCPの必要性はますます高まっている。

こうした中、いつ発生するかわからない脅威に対し、日頃からの備えによって被害を最小限に食い止める努力をしている企業も増えてきた。今回はBCPの策定などに取り組む、ものづくり企業の代表3名に集まっていただき、現在の取り組み状況やその成果、苦労した点などについて語っていただいた。



左から

### 株式会社オービット

代表取締役 西村 直樹 氏

### 日本精器株式会社

代表取締役社長 平井 研三 氏

### 株式会社三木製作所

代表取締役社長 三木 繁親 氏

### 「BCPに取り組んでいない会社とは取引できない」そんな時代になってきた。

**三木** 当社がBCPを意識しはじめたきっかけは、取引先からの要請です。私たちの取引先は大手企業がほとんどで、BCPや環境認証について取り組んでいるか聞かれることが多いんです。



**西村** それって、いつ頃から言われたのでしょうか？

**三木** 環境認証は10年前から、BCPという言葉が出始めたのは5年ほど前からですね。まずは環境認証ですよね。そこで

「エコアクション21」の認証を取得して、今も継続しています。その後、災害や気候変動が続いて「BCPに取り組んでいない会社とは取引できない」という感じになってきました。

**平井** すぐに始められたのですか？

**三木** ここ数年です。こちらの工場には2019年7月に引っ越したのですが、もとは敷地いっぱい古い工場が建っていて、これを新築にすると建ぺい率の関係で工場が狭くなる。改築して使おうと思っていた矢先に大阪北部地震が起これ、その後の台風21号で工場の屋根が飛んでしまった。

**西村** このあたりは被害が大きかったんですね。

**三木** それで新築にしました。費用はかかりましたが安心して働ける場所になったと思います。ちなみにこの周辺は海拔マイナス80cm。ハザードマップによると南海トラフ巨大地震が起きたら2~3m水没すると言われていて、それをどうすべきかを考えているところです。

**平井** 私は八尾市の中小企業サポートセンターによく相談にうかがうんですが、あるとき電話がかかってきて、「一度会社を訪問して、どのようにBCPに取り組んでいるか見せて欲しい」と言われまして。お恥ずかしいことに、その時の私の返事は「BCPって何ですか？」でした(笑)。

**西村** にわかと言われたら、わからないですよね。

**平井** 先ほどのお話にも出た大阪北部地震では、会社のある八尾も揺れたんですね。その揺れた瞬間、何人かの社員は外に出て、ほかは私も含めて社内でじっとしていた。その時はじめて「こういう時、どんな行動を取るのが正しいんだろう」と考えた。すると今度は台風21号がやってきてガラスが割れるわ、屋上の室外機が倒れるわで、ひどい状況に。気が動転して大雨の中、ひとりで室外機を起こそうとしました(笑)。

**三木** 大阪は自然災害の被害を受けることが少ないから、動揺しますよ。

**平井** 2つの災害を受けて先の電話を思い出し、BCPについて調べてみると、これは企業としてやらなければと実感して。まず、BCP